

I 調査の概要

I 調査の概要

1 調査目的

この調査は、現在あるいは今後解決すべき課題について、県民の県政に対する意識・要望などを的確に把握し、県政施策の企画・立案及び県政執行上の参考とすることを目的とする。

2 調査項目

- (1) 暮らしの変化について*
- (2) 県政への要望について*
- (3) 日常生活について*
 - ア 文化・芸術活動について
 - イ スポーツ活動について
 - ウ 住んでいる地域について
 - エ 社会貢献活動について
- (4) これからの時代への対応について
- (5) 地域防災について
- (6) 消費生活に関する意識について※
- (7) 男女平等意識について
- (8) とちぎの元気な森づくり県民税について
- (9) 気候変動について※
- (10) 産業廃棄物処理施設について
- (11) 地域のつながり・住民同士の支え合い活動について※
- (12) 在宅医療について
- (13) 障害者差別の解消について
- (14) 結婚や子育てに関する意識について
- (15) 食の安全・安心について
- (16) 食に関する意識と実践について
- (17) 犯罪と治安対策について

(*印は時系列調査、※印は新規調査)

3 調査設計

- (1) 調査地域 栃木県全域
- (2) 調査対象 満18歳以上の男女個人
- (3) 標本数 2,000
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- (5) 調査方法 郵送法（郵送配布－郵送回収）
- (6) 調査時期 令和元（2019）年6月10日～7月2日

4 調査機関

株式会社エスピー研

5 回収結果

回収数（率） 1,212（60.6%）

6 報告書の見方

- (1) 比率はすべて百分比で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このために、百分比の合計が100.0%にならないことがある。
- (2) 基数となるべき実数はnとして掲載した。その比率は件数を100%として算出した。
- (3) 1人の回答者が複数回答で行う設問では、その比率の合計が100%を上回ることがある。
- (4) 図表・本文では、スペースの都合等により回答選択肢を省略して表記している場合がある。
- (5) クロス集計では、分析軸の「無回答」を掲載していないため、分析軸における各項目のnの合計値と全体の数値とが合わない場合がある。
- (6) クロス集計時に、nが小さい数字になる場合は統計的誤差が生じる可能性が高いので注意が必要である。特に、男性18～19歳の回答者は10人、女性18～19歳の回答者は11人と少ないため、グラフの見かけ上、他の性／年齢と比べて顕著な傾向の違いがある場合でも、グラフの説明においては一律にふれていない。
- (7) この調査の標本誤差は次の式によって得られる。但し、信頼度を95%とする。

$$b = 2\sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}} \quad \left(\begin{array}{l} b = \text{標本誤差} \quad N = \text{母集団数} \\ P = \text{回答比率} \quad n = \text{比率算出の基数 (サンプル数)} \end{array} \right)$$

次に、本調査の標本誤差の早見表をあげる。

回答比率(P) 基数 (n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,212 人	±2.44%	±3.25%	±3.72%	±3.98%	±4.06%
1,000	±2.68%	±3.58%	±4.10%	±4.38%	±4.47%
700	±3.21%	±4.28%	±4.90%	±5.24%	±5.35%
400	±4.24%	±5.66%	±6.48%	±6.93%	±7.07%
200	±6.00%	±8.00%	±9.17%	±9.80%	±10.00%
100	±8.49%	±11.31%	±12.96%	±13.86%	±14.14%

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \div 1$ として算出している。

<注／この表の見方>

例えば、「ある設問の回答者数が1,212人あり、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±3.98%以内（56.02%～63.98%）である」とみることができる。